



## 質リテラシー (Quality Literacy) の醸成

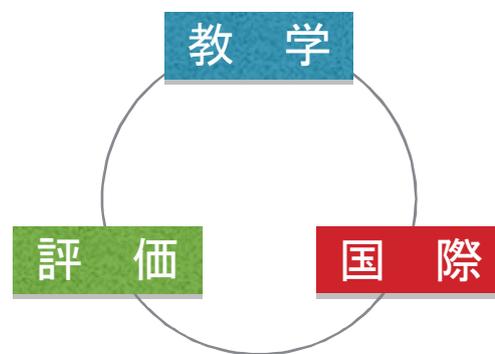
高等教育のグローバル化・多様化が急速に進展した現状では、教育の質をどのように保証するかということが新たな課題として認識されています。とくに、質保証システムの整備が、わが国の高等教育機関の国際的信頼を維持するために大きな課題となってきています。高等教育機関にとって内部質保証システムを構築することの意義や効果は、対外的効果と学内的効果の両面があります。対外的効果としては、当然ながら、機関として説明責任を果たすという意味が第一にあげられます。これだけではなく、質的向上をめざした組織的・継続的体制を整備することによって、機関に対する社会の信頼を高めるという効用も重要です。

質保証や評価は、単に作業の技法や対応のみならず、組織の総合的な学内マネジメントの力量が問われることとなります。学内マネジメントは、機関全体の国際競争力を高めるために重要な要素であり、組織を構成する教職員の「質リテラシー」を高める必要があります。このような観点から、高等教育質保証学会では、質リテラシーの醸成に向けた活動を計画しました。

### ○ 質リテラシーとは

高等教育質保証学会が対象とする「質リテラシー」は、高等教育の質に関する知識やそれを活用する能力をさします。質リテラシーを醸成する活動は、各関連学会、コンソーシアム、大学などが中心となり、多くの団体・組織で取り組まれております。また、認証評価機関自体でも活発に進められています。

質リテラシーは、非常に多様な内容を含んでいますが、それを下記の三分野に整理してみました。もちろん三分野が独立しているわけではなく、相互に密接な関係があることはいまでもありません。



### ○ 平成 26 年度の年次大会

平成 26 年度の年次大会では、学会として質リテラシーの醸成に取り組む第一段階として、「学会特別セッション」において、三分野（教学・評価・国際）に関する既存の取組について、それらの活動内容のマッピングおよびネットワークングを目的として、話題提供をしていただきます。その上で、参加者全員によるディスカッション形式とし、質リテラシーの醸成のためのプログラム設計や領域、内容などについて、参加者の共通理解を醸成し、参加者からフィードバックを得ることを計画しました。

### ○ 背景と今後の展望

「質保証」が高等教育の重要なテーマとなっており、高等教育質保証学会が、質リテラシーの醸成に寄与し、多様なステークホルダーの「議論できる場」となることが求められています。平成 25 年度の年次大会評議員会においても、国内で実施されている多くの取組について、情報を共有できるように質保証学会が活動すべきであるとの提案がありました。このような要請に応えるために、次のようなことをめざします。



Japan Association  
for Quality Assurance  
in Higher Education

高等教育質保証学会

- ・ 高等教育機関教職員、IR・FD・国際/留学オフィス担当者、学生・ポスドクなどのスキルの担保
- ・ 認証評価などで審査する人材そのものの質保証
- ・ プロフェッショナルを育てるための知識、スキル、態度の修得
- ・ 質保証に関与する人材の専門職化に寄与する。専門職として社会への認知を高める。
- ・ 質リテラシー文化の醸成